

七

高麗書院藏

012.3
F

二二
その花あぐさる花のうへ

あひのうへあまの作のおうま世あはれ

あひのうへあまの作のおうま世あはれ

あひのうへあまの作のおうま世あはれ

あひのうへあまの作のおうま世あはれ

あひのうへあまの作のおうま世あはれ

あひのうへあまの作のおうま世あはれ

あひのうへ

あひのうへあまの作のおうま世あはれ

あひのうへあまの作のおうま世あはれ

あひのうへあまの作のおうま世あはれ

あひのうへあまの作のおうま世あはれ

あひのうへあまの作のおうま世あはれ

あひのうへあまの作のおうま世あはれ

あひのうへあまの作のおうま世あはれ

日暮しをよみ今日も國邊に如來ありけり

思ひの 孝くたは行とわらふは何物ぞ

頼みあつてわが心なわりの吊ぬえりて

こゝろれがまじりあはれは書あはれり

の別れあり今独りこれ形見尤あり

これ何なるもあふ糸の乱さ公座程あり

實やふりあはれわらわりのまじり難い

言成又思ひあはれあはれあはれ

きんも理りなる愛身れとんあはれり

是も悔ひ書とこれゆへとんあはれり

や身あはれとあはれなる物勝とも

ひ出^お越後の國府にあはれり

わが我海あつてあはれり

ぬあはれりあはれり

ぬあはれりあはれり

一

陰をくさすの常盤の里乃夕や我
小あつと若あつとむじ里子整人の身と
あつとと輝くうさう海うはくもがれた
つらぬ浪あつとあつと飛ぶのあつとと相
乃若くはれと飛ぶとあつとあつと西
向くと若光寺生身の好法如來わね乱
なつとあつとあつと別と書くと守にあり

海也 傍 いら是なるね女家との海なりと
も女の身なりと叶海なりとあつとあつと女
乃海とあつとも謂らぬや抱室あつと人全代身
役唯祢淨施得生抱業ととと西のま 傍 是
と海との物ねらぬととと根の事すとハたつと
して 海と あつと 海と あつと 海と あつと 海と
ひあつとあつとあつとや唯心の海とあつとあつと

是光寺を如來堂の内に築くを拈樂
乃の品よせの巻の心人らあつた
よの心削れとらふれ如來れ供の
こころへハ河太あせあきあつたを南
是河深地仏ありやくラトス 辨せなり
深地の守ふらに室と心あつたを
是地あ方拈樂の上系と守の心陣ふ

いふ事んラトス 遍照すれ替の
そまゆへは守れ常の灯新れ心念仏
いふ事ん心念仏いふ事ん心念
如來の心念仏いふ事ん心念
の心念いふ事ん心念いふ事ん心念
あつた心念いふ事ん心念いふ事ん心念
あつた心念いふ事ん心念いふ事ん心念

おはじりひのむらさきの海老のえんをちりあせ
とるあしひのむらさきと稱名も種の子も曉
ひそ灯乃ち記光をと作くらひのや敷き破
衣は施す福ひと叶し給色屋昔今何
よの清い心いそぎをえ思ひ花名とあり
あすすこい渡らな 我子れとさひの物な
あしあがあつらつらひひ子れらるまを

おはじりひのむらさきの海老のえんをちりあせ
とるあしひのむらさきと稱名も種の子も曉
ひそ灯乃ち記光をと作くらひのや敷き破
衣は施す福ひと叶し給色屋昔今何
よの清い心いそぎをえ思ひ花名とあり
あすすこい渡らな 我子れとさひの物な
あしあがあつらつらひひ子れらるまを

らん
てんか
うれあ

夜明月乃若あては神ふわに今とま

海雲の海にさ月と眺めりやとふひ水

あひるに名とる月乃今宵とてくを

いそ人が知まてぬまのり月乃雲と雁を

あえよりの月の名をひ目影か月乃若あ

日影の 平 若あふくくひ神とらる海

花のゆきと海一きん志の山越おる

てがうあれ来た湖のあやて海をえのしと

うふらぬ鏡のわけて海んと今月のあに

あふし来まはる有那のきうとむのが福ふ

かわりかちも天鏡を物にさうあおひや我

あふ夜わりはれを影や高れうあも 影の

初まらぬ物清海にや人の親うとくは

あふ影とてさる海に きれゆ来とま

の清い花は厚あぐんをたのめたりとて
まると書あぐんを外鏡のいせとあり
おとの物とてあぐん束ま控の種やも
かんぐゆき春のさめゆ種のおまじわぬ
創きとてあぐんをたのめたりとて
乃あぐんれとてあぐんをたのめたりとて
らの種えがとてあぐんをたのめたりとて

あぐん清い花の厚あぐんをたのめたりとて
まると書あぐんを外鏡のいせとあり
おとの物とてあぐん束ま控の種やも
かんぐゆき春のさめゆ種のおまじわぬ
創きとてあぐんをたのめたりとて
乃あぐんれとてあぐんをたのめたりとて
らの種えがとてあぐんをたのめたりとて

清見の園の者ゆゑの河を清見の園

の者とせらる わたしを今のあふま

ら別事しる後復かゝるはる 大 巻六節

るは事とゆふかゝるは物あらは

くぬのを物にさるあはれ見丸る

を耐ら河にさるひさる物にさる

あめゆ物と 元 せいさきのさい あめ

おれおれと道おひらきつる物さの海は
母よこのつ事ごとくおれおれとせう
子お母さふ親の身らとらまふと
おれとお上あつらひの心とやよそ
も時久し物とささとらふは
引おつちもところおはらさ
よのらそおはまつはな 実あひる

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, on a page with a dotted grid. The text is arranged in approximately seven horizontal lines. There are some red markings, possibly corrections or highlights, scattered throughout the text.

Handwritten text in a cursive script, likely Chinese, on a page with a dotted grid. The text is arranged in approximately seven horizontal lines. There are some red markings, possibly corrections or highlights, scattered throughout the text.

Handwritten Chinese text in cursive script, consisting of seven lines of characters written on a grid of dots.

Handwritten Chinese text in cursive script, consisting of four lines of characters written on a grid of dots.

角田川

源

是れ東國角田川に流し居りては

流後里に成りて下流にありては

河の流に成りて雨にありては

流小流なりて人々を流し居りては

流小流なりて人々を流し居りては

流小流なりて人々を流し居りては

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '角田川'.

۱۰
 ۱۱
 ۱۲
 ۱۳
 ۱۴
 ۱۵
 ۱۶
 ۱۷
 ۱۸
 ۱۹
 ۲۰

۲۱
 ۲۲
 ۲۳
 ۲۴
 ۲۵
 ۲۶
 ۲۷
 ۲۸
 ۲۹
 ۳۰

中野と云ふ所の新是なる也
の意を思はん其意の如く下流の津に
角田河をよみまきりく
是なるらん
中野のらん
おとひねたられぬお女あつね
よ西のりお女あつねの世海ひよ

と云ふて
お女あつねの世と云ふは
中野の者とお女あつねを
角田河の津に
お女あつねの世と云ふは
中野の者とお女あつねを
角田河の津に
お女あつねの世と云ふは
中野の者とお女あつねを
角田河の津に

あはれなる御へく我もあたる今^はは
余ののこるはのよ梅はゆめれあえ
の今^はあはれなる御へく我もあたる
まのの枝ののつじはあはれなる
くもええじはあはれなる
今^はあはれなる御へく我もあたる
あはれなる御へく我もあたる

つらなる御へく我もあたる
とせせあはれなる御へく我もあたる
のあはれなる御へく我もあたる
あはれなる御へく我もあたる
と今^はあはれなる御へく我もあたる
あはれなる御へく我もあたる
あはれなる御へく我もあたる

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, consisting of seven lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian calligraphy, consisting of seven lines of text.

たおろの程の技さけの安ふお時角と

せう坊の今白の付とやとぬ水

りらうの母のうら飛ぶ流がらるはるお

の 是らるるの物のは母さんて

ゆうと申先守れ者おなり。扱も我子安

んを一年日守れさんよさるは昨日

らるるうたの回もやぬぬあまらりた

よのきうさるおまは母の海かひの今十

夜射角とさんごひき日と者日と身

らるるうたのあ^上の列はとあはるづく

ういゆんてとあはけをまのこのわれん

とるはうのうそらまのまをとね浦る

時流る流るのりやとるお人のとま

流るるも箱流るるをまのまのりりく

...のし...
...
...

唯^もめ^んの^ん海^のひ^をえ^ん 是^れら^のう^らい^のん^んん^ん

そ^のう^らい^のん^んん^ん者^をめ^んく^るう^らい^のん^んん^んの^んん^んん^ん

ぬ^らい^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^ん

穀^のん^んん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^ん

此^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^ん

の^んん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^ん

此^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^ん

此^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^ん

此^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^ん

此^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^ん

此^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^んに^のん^んん^ん

意の程人の口幸の地よほしむる可き人
着傍の浦とやよほせやと父の心也

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

あはれなる心よほしむる可き人

平 日 所 為 皆 有 其 道

一 切 事 物 皆 有 其 理

是 故 欲 求 道 者 必 先 求 理

理 之 在 於 心 也 故 欲 求 理 者 必 先 求 心

心 之 在 於 身 也 故 欲 求 心 者 必 先 求 身

身 之 在 於 氣 也 故 欲 求 身 者 必 先 求 氣

氣 之 在 於 血 也 故 欲 求 氣 者 必 先 求 血

血 之 在 於 脈 也 故 欲 求 血 者 必 先 求 脈

脈 之 在 於 經 也 故 欲 求 脈 者 必 先 求 經

經 之 在 於 絡 也 故 欲 求 經 者 必 先 求 絡

絡 之 在 於 皮 也 故 欲 求 絡 者 必 先 求 皮

皮 之 在 於 肉 也 故 欲 求 皮 者 必 先 求 肉

肉 之 在 於 骨 也 故 欲 求 肉 者 必 先 求 骨

骨 之 在 於 髓 也 故 欲 求 骨 者 必 先 求 髓

らうくゆめえ たおきん海りひ とらん

わきおきんらうりあ たよさあおんらうん

中れ者 唐 元らんひらうりえん とゆめ

あふたもあふ 唐 文あふ 唐あふ 唐あふ

あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ

あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ

あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ

あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ

あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ

あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ

あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ

あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ

あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ

あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ

あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ 唐あふ

淡月...
 淡月...
 淡月...
 淡月...
 淡月...
 淡月...
 淡月...
 淡月...
 淡月...
 淡月...



右下係詭者性之板
 行雖多言違身誤難
 計勝今亦關不善補
 不足當流秘落之加
 拍字令改正者也
 元禄二歲乙卯冬吉辰

日本橋南通三町目

利會屋書兵衛

